第２２期考古学セミナー（2020 年度）

－水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形－

第３回講座

講義⑤

東置賜地域の縄文時代中期前半について

日本考古学協会会員

菊地　政信　氏

令和２年 10 月 18 日（日）

会場　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

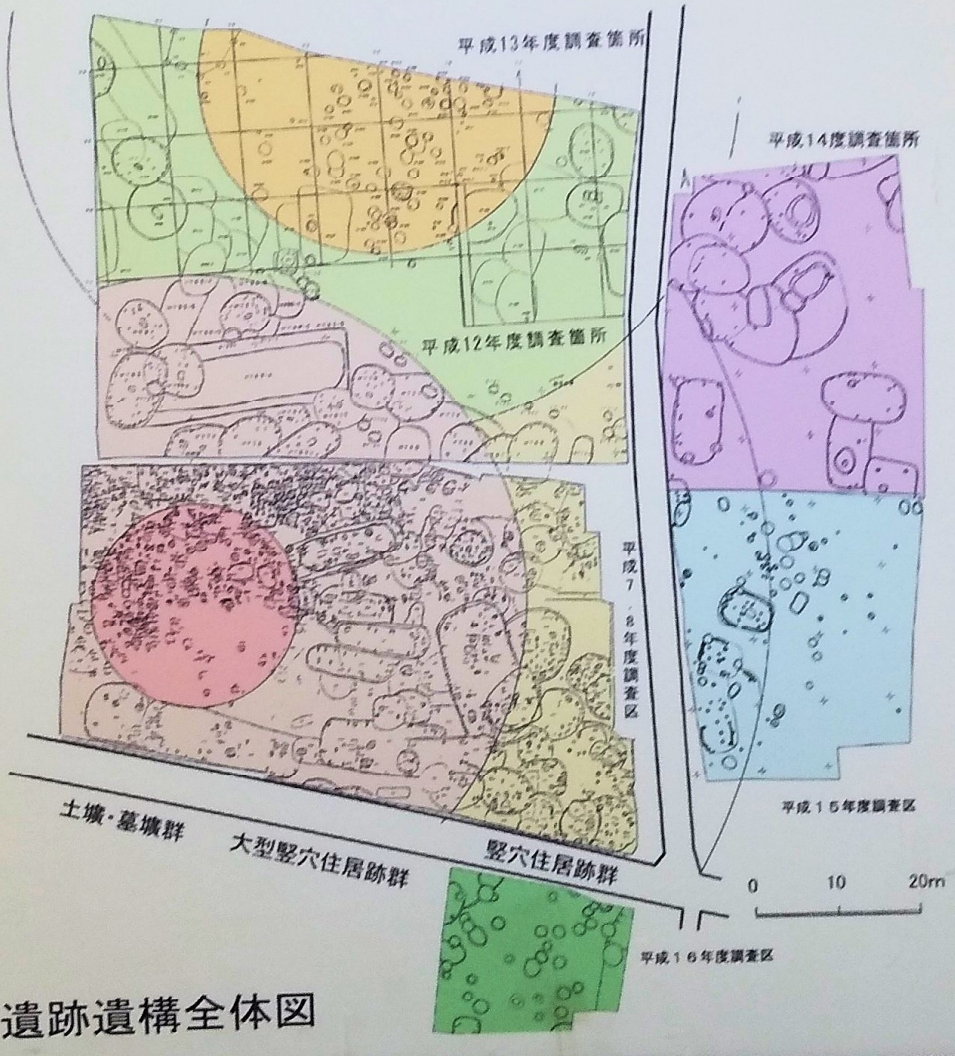
台の上遺跡

遺跡番号　米沢市遺跡No.２２２
所在地　　米沢市吾妻町地内
調査期間　平成12年～平成17年
調査面積　6,069㎡
調査原因　牛舎関連施設及び集合住宅建設工事等

台の上遺跡は最上川（松川）によって形成された自然堤防上に立地します。遺構は中世期を主体とした上層面の遺構群と、下層の縄文中期を中心とした２枚の層に分類されます。検出された遺物は、約２６万点を数え、その大半を占めるのが土器群です。また、土偶を含めた土製品や石製品の多様さも特徴です。

当遺跡は、環状集落を構成した大規模な集落です。他の文化圏との交流を示す数多くの遺物や高度に発達した土器の装飾文様及び集落構成等から、台ノ上遺跡が当時の中核的な集落として存在していたものと推測されます。

大型住居跡と調査風景



台の上遺跡遺構全体図